様式３

学校番号 64

令和４年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立　明善　高等学校（定時制）

自己評価

学　校　運　営　計　画　（４月）

学校運営方針	「克己・盡力・楽天」の校訓に基づき、「楽天」の域に達する生徒育成を全ての指導の基本とし、知力をもって社会に寄与する人材を育成する。 『確かな学力』、『豊かな人間性』を高める主体的な学びを通して、『高い志』を持つグローバルリーダーを育成する。		評価（総合）
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
令和3年度は、登校時の検温、給食時の手指消毒、換気等、感染症対策を十分に行い、教育活動を進めることができた。 また、積極的な家庭訪問、面談を行うとともに、教員間での情報交換を密に行った結果、全教職員が、生徒に対し協働で個に応じたきめ細やかな対応ができた。その結果、問題行動の未然防止につながった。 令和4年度は、リモート学習に関する研修を実施し、休校となった場合でも、教育活動を継続できる態勢を整える。 また、言語活動を含め特別な配慮を必要とする生徒への個別指導及び手立てを充実させる必要がある。	「基礎的・基本的な知識及び技能」の確実な習得を目指し、きめ細やかな指導による基礎学力の定着を図る。 また、習熟度別授業や個別指導をより一層工夫し、ICTを活用した授業を行うなど生徒の実態に即した授業改善に取り組み、個に応じた指導の充実を図り、出席率の向上、中途退学防止に努める。	○個に応じたきめ細かな指導により、生徒の基礎学力の充実に努め、確かな学力の定着を図る。 ○習熟度別指導や個別指導をより一層工夫し、学ぶ意欲と出席率の向上につなげる。 ○生徒の実態を把握し、授業改善に取り組み、中途退学防止に努める。 ○ICTを活用した授業を積極的に行い、わかる授業をの推進に努める。	A
	キャリア教育を推進し、未来に向けて人生や社会を切り拓くことのできる能力と態度を育てることで「志の育成」に努め、望ましい勤労観、職業観の育成を図る。	○自立的な職業選択ができるよう、関係諸機関と連携し、情報を提供する。 ○キャリア教育を通し、自分の生き方、あり方を考える場面を設定し、自らの意思で進路を切り拓くことができる生徒を育成する。 ○地元久留米市の人的・物的資源を活用する体験活動により、生徒の社会的・職業的自立を促す。	
	道徳教育と人権教育を全教科・全領域で推進し、自他を認め合う共感的な人間関係や、人権尊重の精神・自立心・配慮の精神を育て、いじめ撲滅に資するとともに「豊かな人間性」を養う。規範意識やマナーの向上に努め、生徒の健康を守り、校内環境の維持を図る。	○道徳教育と人権教育を全教科・全領域で推進し、充実を図る。 ○全ての教育活動を通して、人権尊重の精神等「豊かな人間性」を養い、自分の大切さとともに他人の大切さを認めることができる生徒の育成に努める。 ○規範意識やマナーの向上に努め、生徒の健康を守り、校内環境の維持を図る。 ○総合的な探求の時間、HR活動を通して、いじめの未然防止・撲滅に努める。	
	生徒会や委員会活動の活性化を図り、自主的運営による学校行事の充実を図ることで学校への帰属意識を高め、出席率の向上と中途退学防止に努める。	○学校行事や生徒会活動は、生徒会、委員会の自主的運営により、充実を図る。 ○教育相談や面談等、すべての教育活動の中で、望ましい人間関係力を育て、学校への帰属意識を高める。	
	社会から信頼される開かれた学校を目指し、教育活動の取組状況を地域に発信するため、学校ホームページ内容の更新するとともに、地域と学校との相互交流に努める。	○学校通信「NIGHTSCHOOL楽天」の発行等、積極的に広報活動を行う。 ○学校ホームページの内容を随時修正、更新し、積極的に教育活動を発信する。 ○地域人材を講師として２回招聘し、地元関係団体との交流を促進する。	

項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題
学校運営	学校運営方針具現化のために、主任主事を中心に組織的・機能的に校務を遂行する。	各分掌の教育活動に対し指導・助言を適切に行い、振り返りを行うことで課題意識を高める	A	A	A	職員間のコミュニケーションは密に取れており、風通しの良い職場である。今後は、ICTも活用し、職員間の迅速な情報共有、業務削減に取り組む。
		全職員がICT等を活用した授業改善に取り組み、工夫や成果を共有できる機会を設ける	B			
		職員間のコミュニケーションを密にし、諸課題に対し情報を共有しながら迅速で組織的な対応を図る	A			
	個に応じた支援を実施するため、全職員で情報を共有し、共通認識のもと、教育活動に取組む	定期的な情報交換により、個々の生徒が抱える課題等について情報共有を図る	A	B		複雑化する生徒の生育環境に対応することが課題。このため、SC、SSW、病院、行政等、関係機関とのさらなる情報共有を図り、生徒を支援する体制を強化する。
		登校指導や校内巡視を行い、生徒の変化に対し迅速に対応できる組織づくりを行う	B			
		学校が抱える課題に対し、職員研修を行い、解決策を共有し、全職員で問題解決に取り組む	B			
教科指導	学ぶ意欲の喚起と学力保障	個に応じたきめ細かな指導を行い基礎学力の向上に努める	A	A	A	基礎学力の定着に向けた「分かる授業」が展開できている。しかし、観点別評価を基にした授業改善が十分にできているとは言い難い。次年度はより「分かる授業」と「観点別評価」が関連した具体的方策が必要である。
		3観点による学習評価により、より適切な学習評価と授業改善に努める	B			
		ICTの効果的な活用を行い、より分かる授業を目指す	A			
	生徒の実態に合致した教育活動の推進	担任と生徒・保護者との連携を密にし、信頼関係を確立し教育活動全般に生かす	A	A		生徒との信頼関係だけでなく、保護者や関係機関との信頼関係が確立してきた。このため、生徒への効果的な指導が可能となっている。次年度は、全職員での情報共有をより迅速に行うことで、適期での指導を可能にし、より効果的な指導ができるようにしたい。
		生徒の背景を全職員が共有し、個に応じた適切な指導を行う	A			
		「わかる授業」を基本とした、達成感を感じられる創意工夫を凝らした授業を展開する	A			
生徒指導	問題行動の未然防止と主体的な生徒の育成	生徒の変化への対応と生徒との信頼関係の樹立のため、情報交換を徹底	A	A	A	綿密な情報交換による生徒理解と問題行動への迅速な対応を徹底する。
		計画的な交通安全指導による交通マナーの育成	A			
		いじめ防止の個人面談やアンケートの実施	A			
	学校行事の改善と生徒会の活性化	心豊かな学校行事を実施し、命を大切にする教育を推進	A	B		学校行事の重点化により、主体的に考える生徒を育成する。
		生徒会を主体にした学校行事の計画実施	B			
		学校行事の精選と重点化	B			
進路指導	自己肯定感の高揚と進路意識の向上	進路講演会を通じて生徒が社会性や自分の生き方を考える機会を設ける	B	A	A	関係機関と連携して進路ガイダンスを行い、生徒の進路意識の高揚を図ったが、次年度は、進路講演会の内容、実施形態についてさらに充実させる。
		関係機関と連携して進路ガイダンスを行い、進路意識の高揚を図る	A			
		就職・アルバイト先の開拓に努め、生徒の生活基盤づくりを支援する	A			
	適切な進路選択ができる環境づくり	個人面談を通じて自己の課題を把握させ学校と仕事の両立を支援する	B	A		生徒には、ハローワークの情報を随時紹介し進路実現につなげたが、仕事と学校の両立に関する支援が必要な状況もあることから、生徒面談をさらに増やす必要がある。
		進路希望調査を通じて生徒の希望進路を把握し、より適切な指導・助言を行う	A			
		ハローワークの情報を随時紹介することで、早期の取組を促し、進路実現につなげる	A			
保健 健康・安全	健全な生活習慣の確立と心身の自己管理能力の育成	性と心に関する講演、食育教室を行い、基礎的な知識・情報の伝達に努める	A	A	A	給食の喫食率の改善に努めているが、配慮を要する生徒が増えている。さらなるSC等との連携を図りたい。
		給食委員会を毎月実施し、喫食率の改善に努める	A			
		健康診断の主体的受診の促進と未受診者への指導を徹底する	A			
	環境美化や保健・安全・衛生に関する意識の向上と改善	生徒保健委員の保健や給食に関する活動を促進し、委員会活動の活性化を図る	B	A		食堂清掃など、生徒会執行部が主体となる取り組みの他に、生徒保健委員会としての取組みを工夫したい。
		食事、睡眠、ストレスなどに対するきめ細やかな健康指導を行う	A			
		保健委員研修会での発表内容の充実とその活用に努める	A			
庶務研修	教職員の資質・能力を高め、生徒の指導・育成に生かす職員研修の実施	職員の要望や社会の実態に応じた職員研修を実施する	A	A	A	年度当初に、職員の要望、生徒の実態と課題を把握し、研修の内容、依頼講師など、具体的な研修計画を早期に企画する。
		地域と連携し、外部講師による研修等を実施する	A			
		校外研修で得た情報を職員間で共有し、研修内容を還流する	B			
	個に応じた学習活動の授業研究、図書環境の充実	生徒の実態をふまえ、必要な学習内容について研修を行う	A	A		生徒の実態に合わせた図書室の活用方法について、職員と生徒で意見を出し合い、読書活動に適切な環境を整備する。
		職員間で生徒情報を共有し、個に応じた指導方法を検討する	A			
		生徒会図書委員会と連携し、生徒が利用しやすい図書室の整備を進める	B			
学校事務	経営参加型の事務室業務の推進	生徒・保護者・学校のニーズを踏まえた、効果的な予算の編成・執行を行う	A	A	A	予算編成では、事務室から各分掌への働きかけや情報共有を図り、予算の編成・執行を行い、生徒、保護者のニーズに応えられるようにする。
		各分掌と情報の共有化を図り、学校経営目標が実現するための事務処理を行う	B			
		生徒・保護者に対して、機に応じて、分かりやすい内容情報を発信する	A			

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・個々の生徒の状況に対応するため、SSW、SC、行政との連絡体制を引続き密に行う。
・学校行事は、WITHコロナの考え方に則りつつも、生徒会が中心に参画し、生徒の自主的、主体的な行動に繋がるような取組みを目指す。
・教科指導は、個に応じたきめ細やかな支援を継続し、「分かる授業」「基礎学力の定着」「達成感の醸成」を図る。
・仕事と学業の両立に支援が必要な生徒がいることから、生徒面談をさらに増やし、関係機関との接続を積極的に行い、きめ細やかな生徒支援体制構築をさらに進める。

学校関係者評価

評価（総合）	自己評価は A：適切である B：概ね適切である C：やや適切である D：不適切である
A	

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	○生徒支援体制ができている。多様な生徒それぞれの状況の把握は大変だと思うが、引続き取組んで欲しい。 ○様々な困り事や生活背景を抱え、それでもなお、学びを修めようとする高い志を持った生徒と思う。学校の温かい支援に感謝する。 ○心のケアが必要な生徒に対して、ケース会議を関係機関と連携しながら支援されている。
A	○生徒との信頼関係確立ができている。 ○時間が多く取れない中での学校行事だと思うが、1つ、1つ確実に取組んで欲しい。 ○限られた時間の中での学校行事は大変かと思うが、よくやられている。 ○生徒個々に寄り添った学校の対応が、生徒、保護者の信頼を得ている要因だと思う。
A	○1人1人の生徒について、しっかり情報交換ができている。 ○様々な行事が行われていることに驚いた。 ○様々な体験が、生徒達の生活の潤いや人生の選択肢を増やすことにつながると思う。
A	○進路講演会の充実をさらに図ってほしい。 ○生徒が安定した進路を獲得することで、生活背景の課題解決や一人の大人としての自信に繋がると思う。
A	○カフェの雰囲気など、少しでも喫食率改善に向けた取り組みがあることが素晴らしい。 ○食育指導は、生きていくための知識となり、とても大事なもの。引続き喫食率向上に努めていただきたい。 ○校内も整理が行き届いている印象を受けた。
A	○読書は、人生に様々なスパイスを与えてくれる行動。これからの人生の視野を広げ、豊かな人生を送るためにも読書活動の充実に努めていただければと思う。
A	○予算厳しき折、学校運営は難しいと思うが、よろしくお願いします。

評価項目以外のものに関する意見

○厳しい状況にある生徒達が、ステップアップするためのきっかけを提供できる明善定時であり続けてください。